

## (活動概要) 柳東はれるんプロジェクト

～愛いっぱい 笑顔いっぱい 夢いっぱいのコミュニティづくり～

柳井市立柳東小学校

### 1 はじめに

本校では芝生をモチーフにしたマスコットキャラクター「はれるん」をシンボルとして、学校・家庭・地域が連携して様々なプロジェクトに取り組み、教育活動の充実を図ってきた。そのような中、昨年度は、教職員と保護者・地域の方に、本校を卒業した中学生を交えて「育てたい子どもの姿」について熟議を行い、そこで出た意見をもとに学校・地域連携カリキュラムを改訂した。今年度は、学校・地域連携カリキュラムをもとにして、学校・家庭・地域が目的やねらいを共有し、取組の計画を見直しながら、連携・協働することで、さらなる教育活動の充実や地域の活性化を図ることとした。

### 2 活動の概要

#### (1) 地域連携の強化による学びの充実

##### ① 学校・地域連携カリキュラムを活用した教育活動の充実～玄関前掲示板整備～

学校としての、ねらいや目的・目標に向かって活動を仕組む中で、それぞれ（教員・保護者・地域の方）が力を発揮するようにするための拠り所となるのが学校・地域連携カリキュラムである。そこで、学校・地域連携カリキュラムを印刷し、各家庭や関係各所に配付し周知を図った。また、児童も大人も学校に来た際には誰もが目にするように、玄関に掲示板を作成し、本校の教育活動が一目で分かるように、コミュニティ・スクール経営構想と学校・地域連携カリキュラムを掲示した。こうすることで、折に触れ、学校に集う人々が、育てたい力や心について話題にしたり、活動の目的やねらい、今後の見通しを話題にしたりすることができるようにした。



##### ② 地域教材の開発と地域を愛する心の醸成～6年生：えがこう！私たちの未来～

本校では、生活科や総合的な学習の時間で、地域の方とふれあったり、地域の施設や史跡を教材化したりすることで、地域を愛する心の醸成に取り組んでいる。今年度は、6年生の活動を見直し、地域の発展に向け、自分たちに何ができるかを考えることで、地域を支える当事者としての意識を高めるための教材開発に取り組んだ。



6年生では、これまでに行ってきたよりよい町づくりについて考える単元を見直し、新たに「えがこう！私たちの未来」として、総合的な学習の時間を使って学習に取り組むことにした。単元の前半では、柳井の町づくりに関する歴史を探訪し、先人の行った努力や工夫から町づくりにかける強い思いを学ぶため、「白壁通り」にバスで移動し史跡を訪ねたり、地域の方にお話を伺ったりした。

単元の後半では、これからの柳井のまちづくりについて、学年を4つのグループに分けて、様々なアイデアを持ち寄ったり、資料を集めたりして、グループごとに協議を重ねることにした。どのグループも、自分事としての町づくりやそのために自分たちができることについて考えを深めることができた。



単元の終盤には、グループごとにまとめた考えを、保護者や地域の方を学校に招いて発表し、その後「熟議」を行った。いわゆる子どもと大人がいっしょになって、ふるさとの発展、よりよい柳井のまちづくりについて語り合うことで、児童の社会参画意識や自分たちを支える大人へ感謝の思いの高まりを感じることができた。

### ③ 学校応援団による効果的な学習活動の推進～1年生：「はれるん教室」～

本校には、多くの学校応援団の方々が、児童の学習支援を行っている。

今年度から、放課後学習塾「はれるん教室」を始めることとした。1年生を対象に、放課後に遊びを通してコミュニケーション力を育てたり、基礎的な内容の補充学習を行ったりする取組で、地域の元教員が中心になって行っている。

児童は、地域の先生から様々な知識や知恵を授かっており、児童に関わる地域の方々にとっては、1年生の成長が大きな喜びとなっている。



## (2) 地域と共にある学校づくりと学校を核とした地域づくり

### ① 地域と連携した「はれるんフェスティバル」の実施～5年生：ちびっ子屋台出店～

地域の秋祭りと連携して、学校と保護者が協力して「はれるんフェスティバル」を行った。学校からは、秋祭りに児童作品を出品したり、5年生による「ちびっ子屋台」を出店したりした。5年生は、総合的な学習の時間に、柳井の特産品を生かした商業の発展や人々の努力や工夫について学んでいる。その学びをより深いもの



にするために、「はれるんフェスティバル」の中で「ちびっ子屋台」を出店することとした。地元の商工会の方々の協力や指導により、児童は働くことの意味について考え、地域のすばらしさや人々の郷土愛について学ぶことができた。また、児童の懸命な取組は、学校に集う大人に元気を与え、地域の活性化にも大きく貢献することができた。

## ② 芝生を活用した教育活動の充実

本校に広がる芝生の運動場は、本校を象徴するものの一つとなっている。この芝生の管理は、地域の「芝生の会」の方々が行っており、そのお陰で、全校児童が芝生の上を駆け回って遊んだり、地域の方々も散歩をしたりするなど、様々な場面で活用されている。このように、



児童や地域の方々にとっての憩いの場があることに対する感謝、及び、維持管理に努める芝生の会の方々への感謝を表すため、運動会の中で、「芝生感謝の会」を行い、一同に会した児童と教職員、保護者、地域の方々で芝生、及び芝生の会の方に感謝する時間を設けた。

## 3 成果

- 学校・地域連携カリキュラムの周知を図り、共有することで、地域の方々の学校教育への関心が高まった。よりよい教育活動に向け、改善を図るために、教職員・保護者・地域の方々がそれぞれに気付きや意見を交換する場面も見られるようになった。
- 6年生のよりよい町づくりについて考える学習では、児童と保護者、地域の方がいっしょに熟議をすることができたことの意義は大きい。これにより、いわゆる地域に暮らす子どもと大人が、一緒に地域を支える当事者としての意識を高めることができた。特に児童にとっては、自分たちの考えを大人と共に深めることができ、学習意欲がさらに高まった。
- 地域の方と関わり、体験的な活動をするを通して、児童は学びの成果を発揮し、発表する場をもつことができた。また、直接のふれあいの中で褒めて認めていただくことにより、成長を実感するとともに、温かい感情や感謝の思いを高めることができた。
- 教職員のみならず保護者や地域の方々が児童の学びに関わることで、共に考え、共に地域を支える当事者としての意識が高まり、地域の活性化につながった。

## 4 課題

- 保護者や地域の方々の関心が高まり、関わりの強化が図られるほど、目的やねらいを明確にし、何をどのように育てるのか共有することが必要になってくる。
- よりよい取組をめざし持続可能なものにするためには、計画・実践、評価・改善のサイクルを構築し、引き継ぐことが重要である。